

山口市豎小路における街並み構成の特徴

真木利江 (感性デザイン工学専攻) 松本誉 (感性デザイン工学専攻)

The characteristics of the streetscape along Tatekoji in Yamaguchi City

Rie Maki(Lecture, Graduate School of Science and Engineering)

Takashi Matsumoto(Graduate Student, Graduate School and Engineering)

Tatekoji is a historical street in the area Otono, Yamaguchi City. But for the past 27 years, there has been a obvious decrease of town-houses and gradually change to residential use from commercial one. The aim of this paper is to clarify the characteristics of this streetscape. We focus on front spaces of 109 buildings along the street. Through integrated analysis of the roof typology, the number of stories, and the open space along the street, these can be divided into five types. And the characteristics of the streetscape are analyzed by considering the continuity of same type buildings. In consequence, the street are divided into 6 area, these show three different phase of changing from historical continuity to recent intermittence.

Keywords : Tatekoji, streetscape, front space of building lot, type, continuity

1. はじめに

本稿は山口市の歴史的街道の一つである豎小路を対象とし、近年における街並みの変遷と現在の街並みの構成を明らかにする事を目的としている。

山口市は室町期、大内氏が館を今の大殿に移して以降朝鮮や中国との貿易により財を築いた。館の東西に通る道を大殿大路とし、大殿大路とほぼ直行し館の西側に通る南北の道を豎小路とした。毛利氏の時代に入ると政治の中心は萩へ移り、山口の町は萩城下と三田尻を結ぶ萩往還の宿場町となった。豎小路はこの萩往還に属しており間口が狭く奥行きが長い土地割りである現在の街並みは、この頃に形成されたものである。明治以降、山口市には県庁や軍事・教育の中核施設が置かれ豎小路に賑わいを生んだ。しかし、昭和 38 年に国道 204 号線（旧国道 9 号線）の開通により既存の中心商店街から切り離され、昭和 41 年からは隣接していた山口大学が郊外へ移転し大きな経済基盤を失うなどにより衰退の一途をたどっている。現在豎小路は市の基本計画において大内文化特定地域とされており、歴史と伝統に育まれた特徴を活かした街づくりが目指されている。周辺地

区には瑠璃光寺や八坂神社、龍福寺など国の重要文化財に指定されている建物や史跡が多数存在するとともに、中心市街地や文化施設が集まっているパークロードに隣接しており利便性が高い¹⁾。歴史的地区として、また中心市街地



図 1 豎小路周辺

の住環境として潜在力の高い地区であるものの、
 縦小路沿いの建物は空家化・空地化・駐車場
 化など多くの問題を生み出している。

縦小路周辺に関する先行研究としては、まず
 進行する空家・空地の活用についての研究があ
 げられる²。1995年と2001年の土地・建物デー
 タの比較や所有状況から、今後の空家の増加、
 空地・駐車場化の進行が予測され、空家の有効
 活用方策等が提言されている。また、街並みと
 いう観点からは、1982年に歴史的資産としての
 町家に着目した調査が行われており、空間構成、
 現代生活への適応状態、居住者意識等の調査報
 告が行われている³。

2. 対象と方法

本稿では縦小路のうち、図2に示す国道9号
 線と国道204号線に分断されている約700mの
 範囲を対象とする。ほぼ南北に伸びる縦小路の
 両側に現在121の敷地が並んでいるが、このう
 ち12は空地、駐車場となっている。109には
 建物があり、これに番号をふっている⁴。また、
 縦小路には3本の東西の道が交差しており、こ
 れによって区分されるエリアを北からエリア
 I-IVとする。現在の街並の特徴を明らかにす
 るにあたり、まず
 1982年に行われた街並み調査を現状と比較し、27年
 間の変遷の概要を明らかにする。次に縦小路沿いの景
 観形成に大きく関
 与する建物の前面
 空間構成に注目し、
 現在の街並の特徴
 を明らかにする。
 なお、現地調査は
 2009年9月から
 12月に行った。

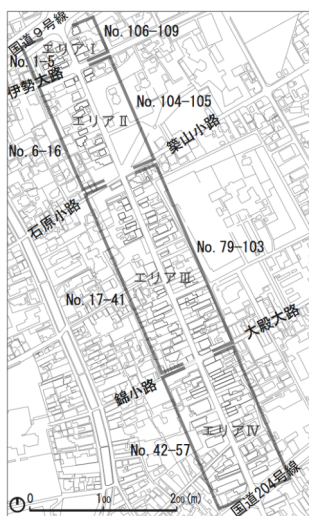


図2 対象敷地

3. 街並みの変遷

ここでは1982年に行われた調査資料と今回
 行った現地調査より、建物の総数、町家・非町
 家⁵、階数、用途という4項目について、数の増
 減を比較する事により27年間の街並みの変遷
 の概要を確認する。

まず総数の減少が見てとれる。2009年におい
 ても特別大きな施設などは確認できず、これは

単純に空地化や駐車場化などの進行を示して
 いると考えられる。次に町家と非町家の数は逆
 転している。1982年にも町家の老朽化や取り壊
 しを確認されているが総数の74%にあたる95
 棟では町家形式が継承されていた。しかし27
 年間に95棟の町家のうち半数以上にあたる52
 棟は取壊しまたは非町家形式への建て替えが
 行われ、現在では40%に満たない数まで減少し
 ている。歴史的街並みとしての姿が、大きく変
 容していると考えられる。階数は2層以下の比
 較的低層の建物が多数を占めている事には変
 化はないが、1、2層の建物が減少し少数では
 あるものの3層以上の建物が増えており、低層
 で構成される街並みに断続性を与えている可
 能性がある。用途においても1982年の時点
 では店舗が6割近く占めていたのだが、現在
 では専用住宅の方が多くなっており、商業を中
 心とした地区から住宅地へと街の性質が変化し
 ているといえる。全体としては27年間に町家
 が建ち並ぶ商業を中心とした歴史的街並みが急
 速に失われつつあり、同時に空地化、駐車場化、
 高層化が徐々に進行しているといえる。

表1 年代別比較

調査年		1982	2009
総数		128	109
町家	町家	95 (74%)	43 (39%)
	非町家	33 (26%)	66 (61%)
階数	1階	15 (12%)	11 (10%)
	2階	108 (84%)	89 (82%)
	3階～	5 (4%)	9 (8%)
用途	専用住宅	49 (38%)	69 (63%)
	店舗	72 (56%)	39 (36%)
	その他	7 (5%)	1 (1%)

4. 前面空間構成の特徴

4-1 分析方法

縦小路沿いの敷地121のうち建築物の建つ
 109の敷地を対象として前面空間構成の特徴を
 明らかにする。ここで前面空間構成とは、縦小
 路から眺める際に現れる敷地と建物の形態的
 な構成を指す。

分析項目は建築物に関する指標として屋根

表2 分析指標

	分析項目	分析指標
建築物	屋根形状	切妻平入、切妻妻入、入母屋、寄棟、陸屋根
	階数	1層、2層、3層以上
	軒・庇	有無
敷地内空地	接道空地	有無
	隣接空地	有無

形状、階数、軒・庇の3点。敷地に対する建築物の配置、つまり敷地内空地として、接道、隣接の2点、計5点をする。屋根形状については、切妻、陸屋根、寄せ棟、入母屋が見られる。階数では低層の建物が多数を占めるため、1層、2層、3層以上の3つに区分し見ていく。軒や庇のラインは、堅小路から目視で確認できる1階部分について有無を確認する。

敷地内空地では敷地に対する建築物の配置を、接道隣接における空地の有無⁶から明らかにする。表2に分析指標をまとめて示す。

4-2 分析

ここでは図3に分析例としてNo2を示し、その他について表3に結果をまとめて示す。No2の建築物は寄せ棟屋根で2層であり軒・庇はない。また敷地内空地は接道部分には無く隣接する敷地との間には空地が有る。こうした前面空間構成を図3の模式図のように示す事ができる。

4-3 前面空間構成の類型

対象とする109の前面空間構成について、建

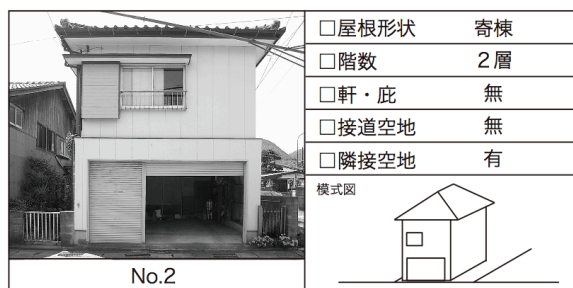


図3 分析例

築物の形態に関する指標を横軸に、敷地内空地に関する指標を縦軸にとり、マトリクス上に空間構成を整理し、区分ごとに該当数と前面空間構成の模式図を示す(表4)。

初めに横軸の建築物の形態に関する指標から見ていく。階数の違いの部分から見ていくと1,2層は100棟あり3層以上は9棟と、1,2層のものが多数を占めていることがわかる。3層以上の建物は陸屋根が7棟と多く、軒・庇に関しても無い建物が8棟存在し大半を占める。1,2

表3 各敷地の建築物と敷地内

no	用途	屋根	階数	軒・庇	接道空地	隣接空地	no	用途	屋根	階数	軒・庇	接道空地	隣接空地	no	用途	屋根	階数	軒・庇	接道空地	隣接空地
1	住宅	寄せ棟	2	○	○		38	住宅	寄せ棟	2	○	○	○	74	住宅	切妻妻入	3		○	
2	住宅	寄せ棟	2	○		○	39	住宅	切妻平入	2	○	○	○	75	住宅	陸屋根	3		○	
3	店舗	切妻平入	2				40	住宅	寄せ棟	2	○	○	○	76	店舗	切妻平入	2	○		
4	店舗	切妻平入	2	○	○		41	住宅	切妻平入	2	○			77	店舗	切妻平入	2	○		
5	住宅	入母屋	2	○	○		42	店舗	切妻平入	2	○			78	店舗	入母屋	2	○		
6	集合住宅	切妻妻入	1	○	○	○	43	住宅	切妻平入	2				79	店舗	陸屋根	2	○		
7	店舗	陸屋根	2	△	○		44	住宅	切妻平入	2	○			80	店舗	陸屋根	2		○	
8	住宅	切妻平入	2	○			45	店舗	切妻平入	2				81	店舗	切妻平入	2	○		
9	住宅	入母屋	2		○		46	住宅	切妻平入	2			○	82	集合住宅	切妻平入	2		○	
10	店舗	陸屋根	2		○		47	店舗	陸屋根	3		○		83	住宅	切妻平入	2	○		
11	住宅	切妻妻入	2	○	○	○	48	住宅	切妻平入	2	○	○	○	84	住宅	寄せ棟	1	○	○	
12	住宅	入母屋	2		○		49	住宅	切妻平入	2	○			85	集合住宅	切妻妻入	2		○	○
13	住宅	切妻平入	2		○		50	店舗	陸屋根	2				86	住宅	切妻平入	2			
14	店舗	切妻平入	1	△			51	集合住宅	陸屋根	13		○	○	87	住宅	切妻平入	2	○		
15	住宅	陸屋根	3		○	○	52	住宅	切妻平入	2	○			88	住宅	切妻平入	2	○	○	
16	店舗	切妻平入	2	○			53	店舗	切妻平入	2	○	○		89	住宅	切妻平入	2		○	
17	店舗	切妻平入	2	○			54	店舗	切妻平入	2	○			90	店舗	切妻平入	2	○		
18	集合住宅	陸屋根	2		○		55	住宅	切妻平入	2	○			91	住宅	切妻平入	2	○		
19	住宅	切妻平入	2	○			56	集合住宅	陸屋根	3(6)				92	住宅	陸屋根	2		○	
20	住宅	陸屋根	2				57	店舗	陸屋根	2				93	住宅	切妻平入	2			
21	住宅	切妻平入	2		○	○	58	店舗	寄せ棟	3		○	○	94	店舗	切妻平入	2	○		
22	店舗	陸屋根	3	○	○	○	59	住宅	切妻平入	2	○			95	住宅	切妻妻入	2		○	
23	住宅	切妻平入	2	○	○		60	店舗	切妻妻入	2	○	○		96	店舗	切妻平入	2	○	○	
24	店舗	切妻平入	2		○		61	店舗	寄せ棟	2	○	○		97	住宅	寄せ棟	2	○	○	○
25	住宅	切妻平入	2	○			62	店舗	寄せ棟	2	△	○		98	住宅	寄せ棟	2	○	○	
26	公共施設	切妻平入	2	○		○	63	住宅	切妻平入	2	○	○		99	集合住宅	切妻平入	2		○	
27	店舗	切妻平入	2	○			64	店舗	陸屋根	2				100	住宅	切妻平入	2	○		
28	住宅	切妻平入	1	○			65	住宅	切妻妻入	2		○	○	101	集合住宅	陸屋根	2		○	○
29	住宅	切妻平入	1	○			66	住宅	切妻平入	2	○	○		102	住宅	切妻平入	2	○		
30	住宅	切妻平入	1	○			67	住宅	切妻平入	2	○	○		103	店舗	陸屋根	4	△		
31	住宅	切妻	1		○		68	住宅	切妻平入	2	○	○		104	住宅	切妻平入	1	○		
32	住宅	切妻平入	2	○	○		69	住宅	切妻平入	2	○			105	住宅	切妻妻入	2	○	○	
33	住宅	切妻平入	2	○			70	店舗	切妻妻入	1		○		106	店舗	入母屋	2	○		
34	住宅	陸屋根	2		○	○	71	住宅	切妻平入	2	○	○		107	店舗	切妻平入	2	○		
35	住宅	陸屋根	2		○	○	72	店舗	切妻平入	2	△			108	住宅	切妻平入	1	○	○	○
36	店舗	陸屋根	2		○		73	店舗	切妻平入	2	△			109	住宅	陸屋根	2	○	○	
37	店舗	切妻平入	1	○																

*軒・庇の△はテントを示す

層の中では屋根形状に平入の形状を見せる建物が 75 棟存在している。その中でも切妻平入のものが 61 棟と大半を占めている。さらに切妻平入、2 層、軒有りの建物に絞ってみると 41 棟あり建築物の区分の中で最も多い。陸屋根・切妻妻入の屋根形状は総数 25 棟と少ないが陸屋根で軒・庇が無い建物が 13 棟と半数程度を占めている。

次に縦軸の敷地内空地について見ていく。建物が接道・隣接しており空地が無い建物が 49 棟と最も多く、次いで後退・隣接の建物が 39 棟となっており隣接空地の無い建物が多く存在する。接道条件で区分して見ると接道している建物は 52 棟、後退している建物は 57 棟と同程度存在している事がわかる。

これらの詳細な区分を縦小路沿いの街並みの連続性という観点から分析していくため 1,2 層で縦小路に対して平入の屋根形状の建築物で接道している形状を町家型タイプとしてまとめるとともに、これとの形態的な差異によって全体を 5 つの空間構成類型として捉え直す。
町家型タイプ：建物が前面道路に接道しており、2 層以下で屋根形状が切妻平入・寄棟・入母屋であり、伝統的な町家形式を継承したタイプで

ある。対象全体が 109 棟に対し 45 棟存在し類型の中では最も多い。

その中でも町家の形状と同じ 2 層、切妻平入、軒有り、接道・隣接共に空地のない建物が 27 棟あり特出して多い。また隣接空地を持つものが 45 棟のうち 3 棟含まれるものの接道空地はなく、縦小路に稠密感を与えている。このタイプは低層の平入であり、45 棟のうち 10 棟は 1 層部に軒・庇を持たない 2 層の建築物であるが、縦小路沿いに親密なスケール感を与える前面空間構成である。最も該当数の多いタイプであるものの、全体の半数に達しておらず縦小路全体に連続的景観を形作っているとは言い難い。しかし部分的には伝統的な景観が残されている可能性も示されている。

町家型後退タイプ：建物が前面道路から後退しており、2 層以下で屋根形状が切妻平入・寄棟・入母屋である。また総数 30 棟であり 2 番目に多い類型である。そのうち屋根形状では切妻平入のものが 18 棟存在し多数を占めている。建築物については町家型タイプと同じ低層・平入の構成を見せるが、寄棟、入母屋の屋根形状が比較的多く見られる。これは建物の更新の時に屋根形状の多様化が進行していると推測さ

表 4 建築物と敷地内空地の分類と類型

	1,2 層 (100)		3 層～ (9)
	切妻平入・寄棟・入母屋 (75)	陸屋根・切妻妻入 (25)	
	切妻・平入 (61) 1層 軒庇有 (6) 2層 軒庇有 (41) 2層 軒庇無 (14) 寄棟 (9) 1層 軒庇有 (1) 2層 軒庇有 (11) 2層 軒庇無 (1) 入母屋 (5) 2層 軒庇有 (5) 2層 軒庇無 (5)	陸屋根 (15) 2層 軒庇有 (5) 2層 軒庇無 (5) 切妻・妻入 (10) 1層 軒庇有 (5) 1層 軒庇有 (5) 2層 軒庇有 (5) 2層 軒庇無 (5)	寄棟 軒庇無 (5) 陸屋根 軒庇有 (5) 陸屋根 軒庇無 (5) 切妻・妻入 軒庇無 (5)
接道・隣接 (49)	町家型タイプ (45) 6 27 8 1	非町家型接道タイプ (5) 1 4	中高層タイプ (9) 2
接道・片側隣接 (3)	1 1 1		
後退・隣接 (39)	町家型後退タイプ (30) 11 5 1 3 1 4	非町家型後退タイプ (20) 1 6 2 1 1	2 1
後退・片側隣接 (17)	2 2 1	3 1 2 2	1 1 2
その他 (1)	30	20 1	

れる。堅小路から後退しているため、町家型タイプが通りに与える稠密感はないものの、総数が多い事から部分的に新たな連続的景観を形成している可能性がある。

非町家型接道タイプ：建物が前面道路に接道しており、2層以下で屋根形状が陸屋根・切妻妻入である。総数5棟であり最も少ない類型である。陸屋根の建物に限られ、町家型タイプと比べると前面方向への勾配屋根の要素は無く、屋根形状には連続性を与えないものの建物は接道しており堅小路に対する稠密感は保たれている。

非町家型後退タイプ：建物が前面道路から後退しており、2層以下で屋根形状が陸屋根・切妻妻入である。総数20棟であり3番目に多い類型であり、分類数も最も多くの形態が存在している。2層以下の切妻妻入の屋根形状の建物は全てこの類型である。隣接空地がある建物が9棟あり半数近くにはのぼる。このタイプは町家型タイプと比べると接道条件と屋根形状ともに異なっており、堅小路に与える稠密感、屋根形状による連続性という点からは町家型タイプと対照的なタイプとして捉えられる。

中高層タイプ：3層以上の建物である。総数9棟であり2番目に少ない類型である。このうち陸屋根が7棟である。階数では3層の建物が7棟であり大半を占めており、残りは4層の建物が1棟、13層の建物が1棟である。13層の建物は集合住宅であり極端に高く後退して建てはいるがその存在感は大きい。3層の建物の中には、堅小路沿いでは3層であるが背後では6層となっており前面にあまり存在感が現れないよう配慮されている建物も確認できる。7棟の建物が接道面に空地を持っており、建物の後退傾向が確認できる。

5. 堅小路の街並み構成

これまで堅小路沿いの敷地121のうち建築物の建つ109の敷地について前面空間構成の特徴を明らかにし、5つの類型を抽出した。ここでは堅小路の街並み構成を類型の連続性という観点から分析する。図4に堅小路沿いの前面空間構成類型の配置を示し、エリアごとに特徴を明らかにしていく。

エリアⅠ：国道9号線と伊勢大路に挟まれた最も狭いエリアで、総数は9棟に限られる。このうち町家型タイプが4棟、町家型後退タイプが4棟、非町家型後退タイプが1棟確認できる。

類型の連続性を見ると町家型タイプ(No. 2, 3)(No. 106, 107)の東西面で2棟ずつと、町家型後退タイプ(No. 4, 5)が西面で2棟連続している。このエリアでは全体を見ると通りへの勾配屋根を持つものが9割近く存在し幹線通り至近であるにもかかわらず、類型の連続性が比較的強いエリアである。

エリアⅡ：伊勢大路と石原小路・築山小路に挟まれたエリアである。東側の接道部の大半を八坂神社が占め植栽が連続する。総数は13棟と少ない。このうち町家型タイプが4棟、町家型後退タイプが4棟、非町家型後退タイプが4棟、中高層タイプが1棟確認できる。類型の連続性を見ると非町家型後退タイプでは西面において2つが連続している場所が2カ所(No. 6, 7)(No. 10, 11)確認できるが、No. 10, 11は2つの接道空地の大きさに差がある。東側の八坂神社がもつ連続性に対し、西側では後退タイプを中心に町家型タイプが点在するかたちで類型が混在しており、かつ堅小路に対する稠密感の低いエリアとなっている。



図4 敷地前面空間類型の配置

エリアⅢ：石原小路・築山小路と錦小路・大殿大路に挟まれた最も広いエリアであり、総数も50棟と最も多い。このうち町家型タイプが21棟、町家型後退タイプが15棟、非町家型接道タイプが2棟、非町家型後退タイプが10棟、中高層タイプが2棟確認できる。類型の連続性を見ていくと町家型タイプでは長い範囲で連続性(No. 25-30)が見られる。他にも2棟ずつで町家型タイプ(No. 90, 91)(No. 93, 94)の連続がある。町家型後退タイプでは西面では北から順に2棟(No. 23, 24)、3棟(No. 38-40)の連続、西面では南から順に2棟(No. 88, 89)、4棟(No. 96-99)の連続が見られる。その他にも非町家型後退タイプでは西面に3棟(No. 34-36)東面に2棟(No. 79-80)の連続がある。しかし、町家型後退タイプと非町家型後退タイプの連続は接道空地の大きさにばらつきがあり、連続性は弱い。全体を見ると中央部において町家型タイプが集中しており統一感がある。北側では町家型後退タイプが連続して向きあうなどが見られるものの5つのタイプが混在しており、堅小路の歴史的資産と近年の変遷が織り込まれたエリアとして捉える事ができる。

エリアⅣ：錦小路・大殿大路と国道204号線に挟まれたエリアであり、総数37棟と2番目に多い。そのうち町家型タイプが16棟、町家型後退タイプが9棟、非町家型接道タイプ3棟、非町家型後退タイプが3棟、中高層タイプが6棟確認できる。中高層タイプは全9棟のうち6棟がこのエリアに集中している。町家型タイプを見て行くと西面で5棟(No. 42-46)、2棟(No. 54, 55)の連続が確認でき、東面で2棟(No. 72, 73)、3棟(No. 76-78)の連続が確認できる。町家型後退タイプでは東面に2棟(No. 62, 63)と3棟(No. 66-68)の連続が見られ、これらはそれぞれ後退距離が同程度となっている。他には中高層タイプの2棟の連続(No. 74, 75)が確認できる。北側では町家型タイプが向かい合って連続しているのに対し、幹線道路に近い南側では中高層タイプへの建替え等、近年の街並みの変遷が顕著に現れており、南北で対照的な前面空間構成の配置を見せるエリアとなっている。

まとめ：堅小路沿いの街並み構成の特徴を4つのエリアごとに類型の連続性という観点から明らかにしてきた。町家が稠密に連続していたかつての街並みが急速に失われていく近年の傾向のなか、類型の連続性が顕著に現れている

部分としては、まずエリアⅠ、エリアⅢの中央部、エリアⅣの北部があげられる。これらはいずれも町家型タイプの連続によるものであり、歴史的街並が継承された連続性として理解する事ができる。これに対し、その他の4タイプによる連続性はエリアⅢの北部に町家型後退タイプによる1カ所が見られるにとどまり、町家型タイプ以外の類型は街並みに新たなまとまりを賦与するには至っていない。特にエリアⅣの南部においては、中高層への建替えなどが進行し、点在する町家型タイプとの間に断続が見られる。エリアⅡの西側、エリアⅢの北側、南側においては低層を中心に類型が混在し、過渡的な状態を示していると考えられる。

これら類型の連続性から堅小路沿いの街並みを町家型連続の3つのまとまり、変遷の過渡期の2つ、中高層化の1つ、計6つのまとまりとして捉え直すことができる(図4)。

5. おわりに

以上、本稿では近年における堅小路沿いの建物の変遷を明らかにし、現状の街並みの特徴を敷地の前面空間の類型化を通して明らかにした。

今後は変遷の過渡期にあるまとまりに注目し、各敷地の空間構成と街並み構成との関係を検討していきたい。

注釈

- ¹ 山口市中心市街地活性化推進室：山口市中心市街地活性化基本計画、山口市、2007
- ² 中國真人、大内裕子、中原弓恵：山口市における歴史的市中心市街地の地区更新、山口大学工学部研究報告、54(1), pp. 43-47 2003-10、2003
- ³ 山口の街と町家調査研究グループ：歴史的町家地区の再生に関する調査研究Ⅱ-近隣商業地区のこれからの住宅と地区整備-、東洋図書出版、1984
- ⁴ 八坂神社は堅小路に接道しているが、間口が特出して広く、全体が植栽に覆われているため建築物のたつ109の敷地には含めない。
- ⁵ ここで言う町家とは「外観、老朽度、プランからいって町家型をしていると思われるもの」とされており看板取付けや前面改造が行われている物も含まれる。本稿もこれに従うがプランについては調査を行っていない。
- ⁶ 約1m以上の幅を持つものを空地としている。
- ⁷ 3章の表の町家の数が43となっているのは、寄棟屋根、入母屋屋根が含まれていないためである。

図版出典

図1：「平成19年山口都市計画総括図」より引用の上、加筆。

図2,4：「平成21年ゼンリン住宅地図」を元に筆者作成。

(平成21年12月28日受理)